

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐山市立北波多中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>県の「小中連携による学力向上推進地域」の指定を受け、小中連携による学力の向上を目標に、指導法改善やICT機器の活用に向けた研究授業やTT授業等に取り組んできた。学習へ向かう姿勢も徐々に意欲的になってきており、学力の高まりとともに自己肯定感も高まりつつある。県学力状況調査において、1年生・2年生ともに全教科で前年度の成績を上回ることができた。今後も、思考力・判断力・表現力という活用力の育成しながら、学力向上に努めていきたい。</li> <li>コロナウイルス感染症予防の観点から、様々な行事が中止あるいは縮小となったが、保護者や地域の協力、支援を受けていくつかの行事をすることができた。行事を通して達成感や成功体験を積ませることで、生徒の自己肯定感を育んでいる。しかし、行事についての事前準備に多くの時間を費やしていることも事実である。今後も業務改善や行事の精選など行いながら勤務時間の適正化を図る必要がある。</li> </ul>
2 学校教育目標	自他を大切にし、互いに認め合い、共に高め合う生徒の育成
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①一人一人が大切にされる学習づくり</li> <li>②自己指導能力を高める生活づくり</li> <li>③互いのよさを認め合える仲間づくり</li> </ul>

4 重点取組内容・成果指標

重点取組内容・成果指標		中間評価	5 最終評価	学校関係者評価		主な担当者				
評価項目	取組内容	進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果		評価	意見や提言		
<b>(1)共通評価項目</b>										
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○「課題や問題を解決するために、友達との対話を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができたか」と回答した児童（生徒）75%以上	「授業参観シート」を使った生徒の学びの様子を見とる相互参観・意見交換の実施と生徒の学期末アンケートの実施	B	「課題や問題を解決するために、友達との対話を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができたか」という質問に95%の生徒たちが肯定的な回答をしている。授業では、ホワイトボードを活用し意見を共有したり、タブレット端末を使ってリアルタイムに他者の意見を確認し、自分の意見に反映させたりできた。	B	「課題や問題を解決するために、友達との対話を通して、自分の考えを深めたり、広げたりする活動は大切である。小中の交流を通して、学力向上のための情報を共有し、ICTの活用も踏まえ努めていってほしい。	・研究主任 ・学力向上対策コーディネーター		
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○地域の人材や外部講師を活用した体験活動や講話などにより、心情面を育てる。保護者の肯定的な意見80%を目指す。	「いきいき学ぶからつ子推進事業」と関連させ、地域人材の活用やキャリア講話を各学年の実践に結び付け、社会性や倫理観を培う。 ・平和集会とPTA活動の体験活動を連携させ、生命の大切さや他者への思いやりを育てる。	B	・平和集会は生徒会本部を中心にピースナイトハイクや平和の火の由来について調べ、被爆者の方々の思いをしっかりと受け止め、その思いを後世にきちんと伝えていく必要性を訴えた。	B	・平和集会や人権集会を通して、人権感覚を養い、人を思いやる気持ちや自他を大切にすることを意識を育んだ。また、生徒会では、毎回人権宣言を唱え、生活厚生部を中心に日頃の自分を振り返るアンケートを実施するなど、情面に訴えた。90%の保護者が思いやりの気持ちをもって接していると評価している。	A	・子ども同士の交流が少なくなり、加えて地域の子どもクラブ自体が減少している。だからこそ、地域人材等を活用し、子どもの実態に応じて社会性や倫理観を培う機会を多く持つことは必要である。	・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当者 ・各学年主任 ・教頭
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校評価アンケートで「学校はいじめのない楽しい学校づくりに努めている」と回答した保護者を80%以上にする。 ○職員の研修の充実（校外での個人の研修推奨と8Cを活用した授業を2回以上）	○いじめアンケート、生活アンケート、Q-Uを実施し生徒の変化を捉えるとともに、年2回教育相談期間を設け生徒一人一人の声を聴く。 ○職員研修を通して生徒一人一人の声を聴き、さらに、Q-Uの調査結果をもとに、校内研修を通して気になる生徒の特定とその対応などを協議している。	B	いじめ防止への取組としては、月1回の生徒指導協議会にて気になる生徒の報告と気づきを多面的価格の協議、いじめの発生を未然に防止している。 ・教育相談を通して生徒一人一人の声を聴き、さらに、Q-Uの調査結果をもとに、校内研修を通して気になる生徒の特定とその対応などを協議している。	B	「学校はいじめのない楽しい学校づくりに努めている」と回答した保護者が90%で目標の数値であった。今後も、学校はいじめ対応に対して保護者の意見を把握し、気になる生徒への声掛けや、Q-Uの研修会、計画的な教育相談を効果的に活用していき、職員全体で情報共有し、迅速な対応を心がける。	B	いじめ防止において、保護者や子どもたちの意見をしっかりと聴取し、学校で対応、解決に努めている。以前は、子どもたち同士が面と向かって話をしながら解決していた。しかし、今はSNS等による問題が目立ってきている。	・(主)生徒指導主事 ・(副)各学年主任 ・教育相談担当者
●心の教育	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていたと思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」という肯定的な回答をした児童生徒75%以上	・生徒会本部を中心に、自治活動を増やし、生徒を承認する機会を増やす。 (生徒朝会、各行事の実行委員会等) ・学期に1回、生徒朝会の場で生徒の振り返り発表を行ったり、通信等で紹介をするなどその生徒を紹介する場を仕組む。	B	・生徒会本部を中心に、生徒朝会や各行事での自主的な活動が増えるように仕組んでいる。少しずつ自分たちでアイデアを出し、実行し、やり遂げたことで、生徒の自信になっているようだ。また、その結果を通信や放送等で紹介している。 ・立腹放送の時間に、自分の日常や目標について語る時間を設け、全校で共有している。	A	・生徒会本部を中心に、生徒朝会や各行事での自主的な活動が増え、少しずつ自分たちでアイデアを出し、実行し、やり遂げたことで、生徒の自信になっているようだ。また、その結果を通信や放送等で紹介している。 ・立腹放送の時間に、自分の日常や目標について語る時間を設け、全校で共有している。	A	様々な行事において、生徒会を中心に取り組み、頑張っている様子が見えたり、地域でも子どもたちから元気なあいさつを返している光景をよく見かける。子どもたちのよいところをどんどん見つけ、地域全体でも共有していきたい。	・(主)教務主任 ・(副)生徒会担当者
	○生徒のボランティア精神の育成	○ボランティア精神の育成のため、校外の行事・清掃美化活動・ボランティア活動を全生徒1度は経験させる。	・各種団体と連携するとともに、生徒会(ボランティアBANK)が中心となり企画・運営を行い、生徒の自主的な活動にする。 ・生徒の頑張りを地域の人々の感謝の声を取り上げ、生徒の活動意欲や達成感につなげる。 ・メディアの活用を行いボランティア意識の高揚を図る。	A	・校内のボランティア活動においては生徒会が中心となり自主的な活動が展開された結果、たくさん生徒が参加している。生徒も自主的にボランティア精神を培っている。	A	・校内のボランティア活動においては生徒会が中心となり自主的な活動が展開された結果、たくさん生徒が参加できた。 ・生徒の頑張りを地域の人々の感謝の声を取り上げ、生徒の活動意欲や達成感につなげることができた。	A	・夏祭り後のごみ拾い、イベント等のサポート、虹の松原清掃など、積極的に参加する生徒が多いと思う。生徒のボランティアに対する意欲を感じ、子どもたちの活躍の場にもなっている。これからも子どもたちの達成感や自信につなげていってほしい。	・生徒会担当者 ・体育主任 ・教頭
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○スマホ、ゲーム保有者の使用時間2時間以内/日の割合を70%以上とする。(月～金)	・PTA総会や保護者懇談会、学活等を活用し、スマホの危険性と功罪について話し、保護者にSNSの使用のさせ方・生徒の使用の仕方について考えてもらう。	B	・スマホの危険性と功罪について、今年度は携帯会社の情報モラル講座を生徒対象に行うことができた。また、警察の方からもスマホにかかわる内容で話をしてもらい、生徒の意識向上を図ることができた。保護者への注意喚起も継続中である。	B	・スマホ等の情報機器は使い方によっては非常に危険なツールとなるため、その使い方については、携帯会社の情報モラル講座を生徒・保護者対象に行うことができた。 ・スマホ、ゲーム保有者の使用時間2時間以内/日の割合は64%で目標を達成することができなかった。保護者への注意喚起と生徒への呼びかけも継続していきたい。	B	・ネットによるトラブルが多く報じられ危機感を感ずる。情報モラル講座や外部の力を借りて生徒への正しい知識と操作、モラルなどの教育はとても大切だと感じる。今後は、スマホを与えている保護者への啓発、管理体制について一緒に考えていこうと必要だと感じる。	・生徒指導主事 ・教頭
	○体力の向上	○新体力テストにおいて、合計得点が全国平均を上回る。	・めあての設置、個人ノートの活用、活動の場の工夫等により、自ら進んで活動する授業の確立を図り、生徒の体力向上を支援する。 ・部活動加入を勧めるとともに、部活動を計画的に実施したり、体力増進のために活動内容を工夫したりする。	B	・授業では、めあての設置、個人ノートの活用、活動の場の工夫等により、自ら進んで活動する授業の確立を図り、生徒の体力向上を支援している。	A	・めあての設置、活動の場の工夫等により、自ら進んで活動する授業の確立を図り、生徒の体力向上を支援することができた。日頃の体育の授業の中で体力を高めるトレーニングを常に取り入れ体力の向上に努めることができた。	A	・体育の授業や部活動が体力向上には大きな要素である。今後も、日々の積み重ねから体力の向上につなげてほしい。	・体育担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	○教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(45H)を遵守する。 ○「業務効率化のためにICT機器を活用した」と答える職員割合を80%以上とする。	・毎月の業務記録表を点検し休養日取得状況を把握し、確実な取得を実践する。	B	・時間外勤務状況をチェックし、超過した職員への声かけをして、時間外の解消につとめている。 ・会議等でのペーパーレス化を推進している。 ・ICTを活用したアンケートを推奨している。	A	・大半の職員は時間外勤務の上限の遵守ができており、大きな学校行事がある月には、上限(45H)を超える職員がいる。業務の分担等が課題である。 ・会議等でのペーパーレス化、ICTを活用した授業、校務の効率化に役立てたと回答した職員は88%だった。	B	・時間のゆとりは気持ちのゆとりにつながる。学校・保護者・地域が役割を分担して、その役割を果たしていることが大切である。今後も業務内容の見直しが必要である。	・教頭
	○休養日の確保	○毎週水曜日及び土曜日または日曜日のいずれか1日を100%休養日とする。(試合が土日開催の場合は、翌日以降に必ず休養する)	・毎月の業務記録表を点検し休養日取得状況を把握し、確実な取得を実践する。	A	・休養日の取得は、現在までのところ実践されている。	A	・部活動の休養日は、全部活動が確実に取得ができています。	A	・過度の練習や試合参加は生徒や教員の負担になると思う。生徒の実態に応じた効果的な部活動の在り方を考えていくことは大切である。	・教頭
<b>(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目</b>										
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	主な担当者
○保護者、地域との連携	○保護者(PTA)や地域各団体との連携・協力	○保護者や地域の人々の来校者を500人以上にする。	・学校のホームページと保護者連絡メールを有効に活用し、学校の行事を早く知らせ、参加率を高める。	B	・学校のホームページでは、毎月の行事予定や学校だよりを掲載している。また、保護者連絡メールを有効に活用して情報の提供をしている。保護者の多くが参観し、来賓についても小学校と連携をとって呼びかけている。	A	・学校のホームページでは、月の行事予定や学校だよりを掲載できた。また、保護者連絡メールを有効に活用し情報の提供をしている。保護者の多くが参観し、来賓についても小学校と連携をとって呼びかけた成果がうかがえる。	A	・学校に対して、保護者が学校教育活動に対して関心が高いことがわかる。保護者がどのような情報を求めているのかを知り、そのうえで情報を発信することが求められているように思う。	・教頭 ・ICT担当
○キャリア教育の充実	○自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	○自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える生徒の割合を80%以上にする。	・キャリア講話や先輩に学ぶ会等で外部人材を活用し充実を図ることで、様々な視点から生き方を学ばせる。	B	・文化発表会での取組で、手話を取り入れ、外部の方と多くの時間を共有することで、福祉における理解が深まった。また、郷土学習の働き体験でも、ふるさとのよさを実感し、自分の職業選びのきっかけになっていると感じる。	A	・文化発表会での手話の発表、外部人材を活用した郷土学習、職場体験活動等を通して、自らの夢や目標に向けて努力することの大切さや様々な視点から生き方を学ぶ機会を得た結果、成果指標を上回ることに繋がった。	A	・これからの社会を担う子どもたちこそ、夢や希望をもって日々の生活を送ることが大切である。夢や希望は活力であると思う。	・各学年主任 ・教頭
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育										
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は県の「小中連携による学力向上推進地域」の指定2年目となり、小中連携による学力の向上を目標に、指導法改善やICT機器の活用に向けた研究授業やTT授業等に取り組んできた。学習へ向かう姿勢も徐々に意欲的になってきており、学力の高まりとともに自己肯定感も高まりつつある。県学力状況調査において、1年生・2年生ともに教科によって平均点を上回るものもあるが、苦学意識が強く、平均点を下回る教科もあるので、今後も、思考力・判断力・表現力という活用力の育成のための教材研究の工夫、学力向上に努めていきたい。</li> <li>保護者や地域の協力、支援を受けて様々な行事を通して達成感や成功体験を積ませることで、生徒の自己肯定感を育んでいる。しかし、行事についての事前準備に多くの時間を費やしていることも事実である。今後も業務改善や行事の精選など行いながら勤務時間の適正化を図る必要がある。</li> <li>生徒会を中心に、平和集会や人権集会等を通して、人権感覚を養い、人を思いやる気持ちや自他を大切にすることを意識を高めていきたい。</li> </ul>									